

企画県土警察常任委員会資料

(平成23年7月21日)

- 1 第1回「とリアート構想」策定会議の開催結果について
【文化政策課】 . . . 1ページ
- 2 「第2回とっとり伝統芸能まつり」の開催について
【文化政策課】 . . . 3ページ
- 3 平成22年観光入込動態調査結果の概要
【観光政策課】 . . . 4ページ
- 4 民工芸品展示会開催による観光PRの展開
【観光政策課】 . . . 5ページ

文化観光局

第1回「とりアート構想」策定会議の開催結果について

平成23年7月21日
文化政策課

県内の文化水準の更なる向上と文化活動の裾野の拡大を図るため、来年度で10年目を迎えるとりアート（鳥取県総合芸術文化祭）のあり方を見直す「とりアート構想」策定会議を設置し、第1回の会議を開催しました。

1 会議の概要

(1) 委員構成

県内文化団体役員、県内文化活動者、学識経験者、教育関係者、公募委員、県文化振興財団役員、市町村文化政策担当課長等、県文化観光局長（合計17名。氏名等は別表のとおり）

(2) 会議の検討事項

- ・「とりアート構想」（「とりアート」の実施に際して使命や目標を定めた「基本方針」に代わる新たな指針）の策定
- ・各文化活動主体実施事業への提言
- ・県内文化活動主体の役割分担の明確化
- ・県内文化活動主体の更なる連携推進

2 第1回会議の開催結果概要

(1) 日時 平成23年7月8日（金） 午後1時30分から午後3時40分まで

(2) 場所 エキパル倉吉1階 多目的ホール（JR倉吉駅構内）

(3) 会議概要

ア 会長、副会長の選任

設置要綱に基づき、委員の互選により、会長に高阪委員（鳥取大学地域学部附属芸術文化センター教授）、副会長に眞田委員（元倉吉博物館長）を選出。

イ 「とりアート」に対する主な意見

- ・とりアートの事業コンセプトや県の文化施策における位置づけ等本質的な議論をすべき。
（基本方針が分かりにくい、設定目標と県内の実情との不一致等）
- ・事業メニュー等を再考すべき。
（メイン事業の内容の偏り、育成した人材のその後の活用が不十分、教育機関との連携不足等）
- ・コンセプト等はしっかりと出来ているが、運用面、マネジメント面で問題がある。
（実行委員会での議論が不十分・役割分担が不明確、市町村との連携不足、プロデューサー制の検討が必要、広報が不十分で認知度が低い等）
- ・アンケート結果では満足度がかなり高く、良質な作品を県民に提供できている。

(4) 今後のスケジュール

今後6回程度会議を開催し、10月下旬を目途に「とりアート構想」を策定する予定

【参考：とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）】

平成14年に開催した「国民文化祭とっとり」の成果を継承発展させるべく、平成15年度から県民自らの手による文化芸術の祭典として実行委員会方式で実施しているもの。平成21年度からは、愛称を「とりアート」として実施。

今年度は9月1日から12月31日までを「とりアート」期間とし、県内各地において様々な文化芸術の催しを実施予定。

別表

分類	所属、役職	氏名	分野
県内文化団体	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会 副会長	いのうえ たくや 井上 拓也	音楽
	鳥取県文化団体連合会会長	すきき としお 須崎 俊雄	文芸
	倉吉文化団体協議会長 (4市文化団体協議会推薦)	とば たかゆき 計羽 孝之	音楽
県内文化活動者	鳥取県吹奏楽連盟顧問	こだに ゆきひさ 小谷 幸久	音楽
	座・がいなプロデューサー	やまさき やすあき 山崎 靖明	演劇
	山陰書人社代表	しばやま ほうかい 柴山 抱海	書道
	今井書店グループ 代表取締役会長	ながい のぶかず 永井 伸和	出版
学識経験者	鳥取大学地域学部附属 芸術文化センター教授	こうさか かずはる 高阪 一治	—
	元倉吉博物館長	さなだ ひろゆき 真田 廣幸	歴史
教育関係	鳥取県高等学校文化連盟会長 (倉吉西高等学校長)	たけのうちせいいち 竹ノ内誠一	—
公募	鳥取環境大学教授	きまた のぶゆき 木俣 信行	—
	鳥取大学 大学院生	たぞえ みきお 田添 幹雄	—
県文化振興財団	常務理事	たむら あきとし 田村 明敏	—
市町村	鳥取市企画推進部次長	にしむら ともゆき 西村 朋之	—
	倉吉市観光交流課長補佐	みふね まこと 美船 誠	—
	日野町文化センター所長	まつだ のぶこ 松田 暢子	—
県	文化観光局長	ほそば ただし 細羽 正	—

「第2回とっとり伝統芸能まつり」の開催について

平成23年7月21日
文化政策課

1 目的

地域で守られてきた伝統芸能等を次世代に引き継ぎ、伝統芸能伝承並びに活用の気運を盛り上げるため、一昨年鳥取県内で開催した「日本のまつり・2009鳥取」の成果を踏まえ、県内市町村が開催する地域のまつり等と連携して開催する。

2 事業内容

- (1) 場所 とりぎん文化会館梨花ホール
- (2) 日時 平成23年7月31日(日) 開演：午後1時30分(午後1時開場)
- (3) 内容
 - ①伝統芸能功労団体知事表彰
からべがんりきおどり
勝部岩力踊り保存会、貝がら節保存会
 - ②民俗芸能披露
県内：逢鷲太鼓、麒麟獅子舞、宇治傘踊、しゃんしゃん傘踊り、すずっこ踊、倉吉打吹太鼓、宇野三ツ星盆踊り、鬼面太鼓
県外：よさこい踊り(高知県)
海外：民謡と伽倻竝唱(韓国)
カヤグムピョンヂヤン
- (4) 主催 鳥取県、鳥取県教育委員会
- (5) 実施主体
とっとり伝統芸能まつり実行委員会
(鳥取県、鳥取県教育委員会、伝統芸能実践者、開催市町村等のまつり等の担当課など)

3 昨年度(第1回)の開催実績

- (1) 日時 平成22年8月8日(日) 午後1時30分から午後4時30分
- (2) 会場 県立倉吉体育文化会館
- (3) 実施内容
 - ①伝統芸能功労団体知事表彰
受賞団体：日置はねそ音頭保存会、小松谷盆踊保存会
 - ②県内外民俗芸能披露
県内(因幡傘踊り、麒麟獅子舞、日置はねそ踊、三朝さいとりさし、おんなみこし、打吹童子ばやし、荒神神楽、淀江さんこ節、河崎花がさおどり、小松谷盆踊)
県外(阿波踊り・徳島県)、海外(九天民俗技芸団・台湾)
- (4) 来場者数 700人
- (5) 成果
 - ・地域伝統芸能のすばらしさを県民の方に認識していただくことができた。
 - ・県内の伝統芸能についての再認識の機運や地元の誇りとしての思いの高まりにつながられた。

平成22年観光入込動態調査結果の概要

平成23年7月21日
観光政策課

1 概要

- 観光入込客数(実人数)は、前年に比べ1,401千人(14.3%)増加し、現在の統計手法を始めた平成10年以降で、初めて1,000万人を越えた。
- 地域別に見ると、浦富海岸・岩井温泉周辺と県西部地域が増加したが、中でも境港周辺の大増は、NHKドラマ「ゲゲゲの女房」によるものと推測される。
- 発地別に見ると、近畿、中国、四国の近隣地域からの入込客が増加した。
- 月別に見ると、前年と比較して7月、8月が大幅に増加し、8月は200万人を超えた。
- 本県への観光客は、例年自家用車利用客が大半を占めているが、前年より自家用車利用客が増加した。

2 各種データ

(1) 県外県内別観光入込客数(実人数)

区分	観光入込客数(千人)		対前年比		構成比(%)	
	平成22年	平成21年	増減数(千人)	率(%)	平成22年	平成21年
県外観光客	5,660	4,469	1,191	126.7	50.4	45.5
県内観光客	5,564	5,354	210	103.9	49.6	54.5
合計	11,224	9,823	1,401	114.3	100.0	100.0

(2) 地域別観光入込客数(実人数)

広域エリア名	観光入込客数(千人)		対前年比	
	平成22年	平成21年	増減数(千人)	率(%)
鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺	2,703	2,786	▲ 83	97.0
浦富海岸・岩井温泉周辺	197	153	44	128.8
八頭	225	228	▲ 3	98.7
とっとり梨の花温泉郷周辺	1,411	1,425	▲ 14	99.0
東伯耆周辺	601	631	▲ 30	95.2
米子・皆生温泉周辺	1,582	1,397	185	113.2
境港周辺	3,050	1,825	1,225	167.1
大山周辺	1,278	1,221	57	104.7
奥日野周辺	177	157	20	112.7
合計	11,224	9,823	1,401	114.3

(参考) 地域エリア構成市町村一覧

広域エリア名	構成市町村
鳥取砂丘・いなば温泉郷周辺	鳥取市(河原町、用瀬町、佐治町、福部町の一部を除く)
浦富海岸・岩井温泉周辺	岩美町、鳥取市(福部町の一部)
八頭	鳥取市(河原町、用瀬町、佐治町)、八頭町、若桜町、智頭町
とっとり梨の花温泉郷周辺	倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町(旧北条町)
東伯耆周辺	北栄町(旧大栄町)、琴浦町、大山町(旧中山町)
米子・皆生温泉周辺	米子市(淀江町の一部を除く)、日吉津村
境港周辺	境港市
大山周辺	南部町、伯耆町、米子市(淀江町の一部)、大山町(旧中山町を除く)、江府町
奥日野周辺	日南町、日野町

民工芸品展示会開催による観光PRの展開

平成23年7月21日
観光政策課

1. 目的

大都市圏を中心に民工芸品と観光情報を一体化したPRを若い世代に人気のインテリアショップ等（セレクトショップ）にて実施し、観光誘客と販路拡大を目的とする。

また、若手製作者の作品を積極的に取り上げ、展示会反響による製作者の意欲の向上、人気ショップでの市場情報収集による商品開発や後継者育成につなげる。

2. 参加民工芸品

因州和紙、弓浜緋、陶磁器、木工、郷土玩具、その他

3. 今年度の実施工程

東京、大阪、他合計13カ所で実施予定

	開催時期	開催場所	内容	備考
1	5月30日～ 7月3日	セレクトショップ・ジォ	金沢 展示会 「とっどりの手仕事展」	来場者数3,300人
2	8月20日～ 9月2日	organ	福岡 展示会	
3	24年 2月末頃	工藝風向	福岡 展示会	
4	24年3月	oval	ソウル 展示会・トークショー 「2012Tottori×seoul」	
5	調整中	クラスカショップ トー	東京 展示会	
6	24年1月～ 3月頃	夏椿	東京 展示会 ワークショップ	
7	調整中	SML	東京 展示会 「酒器と地酒」	
東京4箇所、大阪1箇所、鹿児島1箇所 : 打診中				

4. 昨年度（平成22年度からの新規事業）の実施状況と成果

(1) 22年度の実施状況 計4カ所

H22.8.26～8.31 トットリ展（東京）

H22.11～H23.3 トットリソウル展（東京、大阪、ソウル）

(2) 22年度の成果

- ・民工芸や観光に関心が深い若い世代を中心に多数の来場者を達成。
- ・マスコミの問い合わせが多数あった。
- ・若い世代に人気のセレクトショップなどに販路と鳥取県の知名度が広がった。